



おすすめの本

「ハヤブサ消防団」

池井戸潤／著 集英社

東京から、亡父の故郷であるハヤブサ地区に移り住んだミステリ作家の三馬太郎。消防団に勧誘され、迷った末に入団を決意した太郎だが、やがてのどかな集落で密かに進行していた事件の存在を知り、地方の小さな町が舞台の「田園」小説

「新！店長がバカすぎて」

早見和真／著 角川春樹事務所

異動になっていた元店長が、三年ぶりに本店に復帰。本や書店を取り巻く環境はますます厳しくなってきたが、それでも書店員の京子は、周囲の皆の応援を受けながら、日々戦っています。小説と書

店の未来を、仕事の意味を、生きる希望を深く問い直す、シリーズ第二弾。

「戦争と人間と魂 寂聴文庫の原体験を聴く」
小池政行／著 瀬戸内寂聴／著 かもがわ出版

この対談はわたしが死んでから出さない！死後に刊行をという瀬戸内寂聴氏の意向を踏まえ、敗戦、東日本大震災などの「死」につながる体験や出来事を語った2011年の対談を書籍化。

「ルポ誰が国語力を殺すのか」
石井光太／著 文藝春秋

子供たちの国語力が失われているのはなぜなのか。「ごんぎつね」の読めない小学生、反省文の書けない高校生などの具体例を挙げながら、言葉や失った子供たちの実態と、国語力回復の道筋を描く渾身のルポ。

「ほっこり 心身をすこやかに整える55の小さなレッスン」

伊藤裕／著 クロスタリア・パブリッシング

卵の殻をつるんとむく、サラサラ流れる砂時計を見る、観覧車に乗ってみる…。思わずやってみたくなる、心を解き放つ「ほっ活」55を、マンガやイラストを交え紹介。

「忘れもの遊園地」

久米絵美里／著 アリス館

忘れものをして慌てるトラタとレミ。そこに忘れもの遊園地の園

長と名乗るおじいさんが声をかけてきた。タブレットに「忘れたい記憶を書きこみ投稿すると、その記憶は遊園地のエネルギーに変わり、忘れものは手に入る」というが…。

「Fujin no Gakko no Shinryu.」
わかこいなごうじ

京都大学野生動物研究センター／監修
小学館集英社プロダクション

世の中はわかっているようで、わかっていない事だらけ。キリンの声、ゾウの鼻、ナマケモノの背脂など、世界でまだ誰も解明していない、どうぶつたちの謎を通して、「答えのない問いに向き合う力」を育てる新感覚の絵本。

「僕らが学校に行く理由」

渋谷敦志／写真・文 ポプラ社

これまで世界各国の子どもたちにレンズを向けてきた写真家・渋谷敦志が、紛争、貧困、災害といった逆境に負けずに学ぼうとする子どもたちを追ったルポ。学ぶことの意味を読者とともに考える。

★ 行事・お知らせ

● 万華鏡をつくるう！

日時 10月22日(土) 14時30分
場所 図書館1階
指導 児童館職員
参加費 無料

「健康マージャン入門教室」(後期)

認知症予防や仲間づくりにより、いきいきと暮らせる地域社会を目的として、初めてマージャンをする人も楽しく点数計算まで健康マージャンを学びます。

開催月日 11月9日・16日・30日・12月7日・14日・21日・28日
令和5年1月11日(いずれも水曜日)

開講時間 13時30分～15時30分

会場 町中央公民館2階 第3会議室

定員 30人

受講料 2,000円

教材費 2,000円(入門書代 ※11月9日(初回)に徴収します)

申込 町中央公民館窓口のみ 10月12日(水) 8時40分より受付開始します。

申込書をご記入のうえ、受講料を添えてご提出ください。電話での申し込みはできません。

